



軽防協ニュース速報（号外）

2014年8月8日

軽種馬防疫協議会 事務局

（JRA 馬事部防疫課）

アメリカ合衆国における水胞性口炎の発生について（続報）

2014年5月下旬、アメリカ合衆国テキサス州で水胞性口炎の発生が確認されて以降、テキサス州とコロラド州において感染が拡大している。

米国農務省（USDA）は、8月6日現在までに水胞性口炎ウイルスの陽性が確認された施設は2州で110施設であり、コロラド州が6郡を含む69施設、テキサス州が10郡を含む41施設であると報告した。馬の感染頭数は、コロラド州で109頭、テキサス州で59頭となっている。この他、ウシにおいてもコロラド州で1頭、テキサス州で4頭の感染が確認されている。すべての症例において、原因ウイルスの血清型はニュージャージー型である。

コロラド州の69施設、テキサス州の33施設では現在も検疫制限が実施されている。

水胞性口炎ウイルスは、馬、牛、豚、ヒツジ、ヤギ、ラマ他多くの動物の口腔、舌、鼻口、乳頭あるいは蹄に水疱や丘疹を形成する。対症療法によって病変は2~3週間で治癒することが多いが、伝染性の性質および口蹄疫等他疾患との類似性から、これらの徴候が認められた場合にはすぐに報告するよう注意喚起がなされている。水胞性口炎の伝播には昆虫が重要なベクターであると考えられており、吸血昆虫との接触を可能な限り限定する措置をとることが重要とされている。

尚、2014年の国際獣疫事務局（OIE）総会において、水胞性口炎はOIEリスト疾病から削除されている。

【参考】

<http://www.aht.org.uk/icc/linksicc.html>

軽種馬防疫協議会